

---

# 僕等の夏

南 たえ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕等の夏

### 【Nコード】

N8861A

### 【作者名】

南 たえ

### 【あらすじ】

恋愛？友情？…あなたはどちらを選びますか？

## **STORY..1『プロローグ』(前書き)**

初投稿作品です。みなさんからの辛口評価、待っているので、  
どん評価よろしくお願いしますm (´`´) m

## STORY..1『プロローグ』

蝉の鳴き声が妙にうるさい8月上旬。この一言で私の世界が変わった。

『あゝ…暇…』

榊 唯乃。

高校2年生。

彼氏もいなければ、好きな人もいない。

彼氏いない歴6ヶ月に、この頃は焦りさえも感じる。

そんな私はやる事がなくて、親友の美優に愚痴を言う始末。

『部活とか入れば？』

美優は部活を勧める。でも、この糞暑い中、余計に汗をかくのも抵抗がある。

『暑いじゃん』

『ダイエットだと思えば楽シヨウでしょ？』

ダイエット…最近、お腹の肉が気になるのも現実である。…泣くぞ。

『見学だけでも行こうよ！彼氏出来るかもよ』

さすが親友。私の焦りも感じ取っているとは…。

『唯！行くよ』

『うん…』

サッカー部、野球部、テニス部、吹奏楽部…いろいろ見たが、どれもしょぼい。マネージャーもやる気がしない。

私は完全に諦めモードだったが、美優はまだ粘っていた。

『あ！バスケ部行ってないじゃん』

…ああ。あの弱小バスケ部。実際に見たことはないが、噂では幽霊部員多数とか。

『弱小じゃん』

『いいから！』

何かを企んでるような美優が怖い。いつも、面倒なことは後回しにしてたハズなのに…。

何の風の吹き回しだ？

## STORY：2【きっかけ】

着いた先は…もちろん、体育館である。

体育館に着くまでに、美優は何回も私を見て笑っていた。“失礼極まりない”とはこの事か。

——がらっ

体育館の重たい鉄のドアを開けると、少人数の3年生と1年生がいた。

『すいませーん』

美優が大声で言った。みんなが一斉に振り向き、こっちに視線を向ける。

『見学させてもらいますねー』

OKサインをいただき、体育館の隅の方で見てみる。

『今から、シュート練習するってさ』

『ふーん…』

『うわっ！ノリ悪い』

別に初めからノリ気じゃねえーよ！…とか思ってみたけど、口には出さない。まだ生きたいし。

——ザッ！！

目の前で、大きな音を立てながらシュートが決まった。

『ナイスシュート』の声が響き渡る。

決めたのは3年生だろうか。

いや、1年?…まさかね。

『響——!! ナイツシュ——!!』

いろいろ考えていると、隣的美優の声が耳に入った。ってか、響って誰やねん。……ってか、何してんねん!!

『ちよっ…何してんの!?!』

『今シュート決めたの、私の弟なの!』

『へえー………』

あんだ、弟居たんだ。

早く言えよ(泣)

だから笑ってたのか? 人の顔見て?

……わからん。

美優の発言には、たまに考えなければ、分からないところがある。

これは元々で、天然なんだろう。

だから憎めない。

でも、美優の困った発言はここでも健在。続けてこう言ったのだ。

『唯! 響と付き合ってあげてくれない!?!』

### STORY：3【衝撃告白】

『響には唯しかないの！だからお願い！！』

……天然とアホは紙一重なんだな。いくら何でも唐突過ぎるだろ。オイ。ってか、それはあんたの弟の…響くんが言わなきゃいけない言葉でしょ。

『ごめん。意味がわかんない』

『だーかーら！響と付き合ってあげて！！』

『なんで私？』

『響のタイプだから』

私が大きく溜め息を付いたのと同時に、美優の弟・響くんが走ってきた。

その第一声が……

『お願いします！！』

……やっぱりアホだ。

姉弟って嫌でも似るんだな。可哀相に…（泣）

『唯、返事は！？…やっぱりダメ？』

『えーっと……響くんのこと、よく知らないからー…まだ付き合えない（汗）』

私が上手く交わして、一件落着で終わるかと思ったその瞬間、

『榊さん』



声をかけられた。バスケット部の3年生で、背は高く、人を真っ直ぐ見る瞳に凄く引き付けられた。

『なんですか…?』

『重なっちゃうけど……好きです』

は?何、一度に2人から告られてんの自分。しかも、今日初めて逢った人だし……。

『あの…』

『あ!俺の名前は渥美 翔って言って…』

渥美 翔と言う名の青年は、ツラツラと自己紹介を始めた。とにかく不思議な青年だった。髪の色からはハーフに見えるが、顔つきは完全な日本人だ。

引き付けられる瞳も、青緑色をしている。

初めはカラーコンタクトかとも思ったが、違うみたいだし……。全てが不思議な青年だった。

…この告白とこの青年の出現で、私達の関係は捻れてしまったのだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8861a/>

---

僕等の夏

2010年10月22日14時04分発行